用語 【ユニバーサルデザイン】性別や年齢、人種などを越えた多様性を踏まえて、多くの方が安心して利用可能なようにデザインすること

飯島 忠 議員

質問 災害発生時の要支援者への避難行動の対応について

答弁 バリアフリー化の推進が求められると認識している

飯島議員の質問動画

議員
災害発生時における、要支援者一人ひとりの個別避難計画書作成の進捗状況について伺う。

市長公室長
計画書作成希望者1289名の内754名の約6割分を作成した。
現在、コロナ感染症拡大の影響もあり、未策定者への訪問は控えている。しかし、計画書を作成して終わりではなく、未策定の方々の作成も進めながら、出来上がった計画内容の確認も並行して行っていきたいと考えている。

議員
避難時に手助けが必要な難病患者をリストアップした避難行動要支援者名簿に記載されていない患者も多いとの報道がされている。
見ただけでは、病状が分からない方も多くいる。総務省の調査では、茨城県の名簿記載率は50％との報告があるが、当市の状況は。

市長公室長
難病患者情報については、県が保有する医療費助成申請者情報のみとなり、全ての患者情報を網羅するものではない。難病患者が避難に対し、支援を要するか否かを判断し名簿に登録をするかは、本人に確認しなければならない。また、患者によっては、他人に知られたくないという方々もいる。プライバシー保護の観点から、本人の意向を尊重することができる現在のマニュアルの運用が適正であると考えている。

議員
高齢者や障害者が災害時に使用する避難所のバリアフリー化対策と今後の避難所について伺う。

市長公室長
昨年5月に公立小中学校がバリアフリー基準適合義務対象施設に含まれたことから、学校は避難所となり、教育施設、地域施設としてバリアフリー化の推進が求められると認識している。当市では、福祉避難所を中心にユニバーサルデザインの考え方を導入しこれを基本に推進していきたい。

議員
誰もが安心して避難できる施設を目指して、早急に対応していただきたい。

関 優嗣 議員

質問 市内の外国人にも、しっかり情報発信を!!

答弁 多文化共生のまちづくりを進める

関議員の質問動画

議員
当市はどのように外国人に対して情報発信を行っているのか。

市民生活部長
外国人のための生活ガイドブックを中心に情報提供を行っている。
また、コロナ禍における情報については、ポルトガル語、英語、やさしい日本語を活用しながら、ホームページやSNS等を通じて迅速な支援を行っている。

議員
達成度、浸透具合を評価した上で、今後の課題について伺う。

市民生活部長
ある程度グループ化して絞った言語、もしくはやさしい日本語を活用した案内を引き続き行っていくことが重要であると考えている。
また、市職員に対するやさしい日本語の研修や市民に向け、例えば企業やNPOなどの方々にも期待をしつつ、講座の開設等を行うことで情報発信のチャンネルを増やすことも重要と考えている。

議員
やさしい日本語について詳しく聞きたい。

市民と共に考える課長
やさしい日本語とは、約7割の外国人がおおむね理解できるとされている表現手法である。
例えば、「至急避難してください」を「急いで逃げてください」と表現を変えることで、同じ内容であっても外国人に非常に理解しやすくなると言われており、多くの自治体でこの手法が取り入れられている。

議員
講座やホームページ等を使って、やさしい日本語を職員や多くの市民が習得し、県内でも外国人の割合率がトップの常総市が多文化共生を進めて、平時から上手くコミュニケーションを取り、意思の疎通を図ることで、災害であったり、コロナウイルス等との戦いの中で確実に情報発信ができると思う。
誰も取り残すことのないよう、ぜひ、やさしい日本語の習得の機会を作っていっていただきたい。

【その他の質問】
★市職員、高齢者施設従事者に対する新型コロナウイルスワクチン接種について